

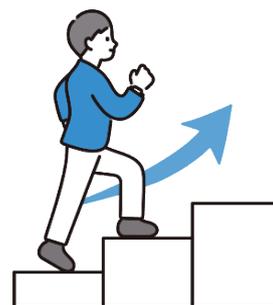
第1節 全体目標

宮城県の全体目標

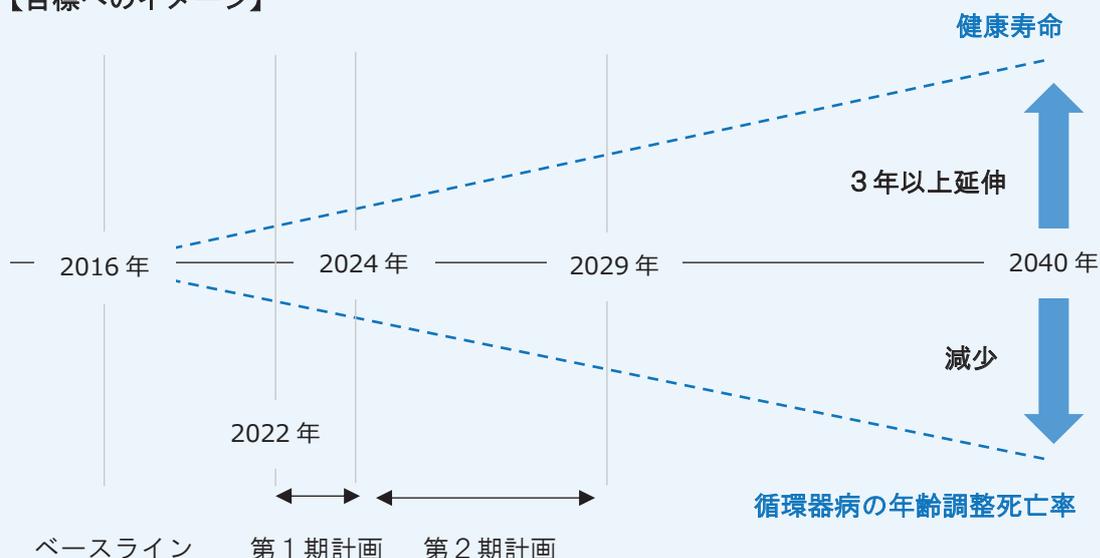
- 令和 22（2040）年までに3年以上の健康寿命の延伸
- 循環器病の年齢調整死亡率の減少

国の「循環器病対策推進基本計画」において、「2040年までに3年以上の健康寿命の延伸（2016年比）」と「循環器病の年齢調整死亡率の減少」が全体目標として掲げられています。

本県においても、同じ目標を設定し、「循環器病の予防や正しい知識の普及啓発」及び「保健、医療及び福祉に係るサービスの提供体制の充実」を図ることにより、達成を目指します。



【目標へのイメージ】



● 健康寿命の延伸

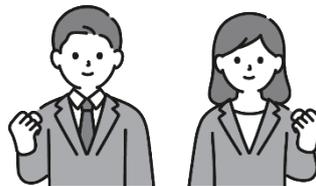
宮城県の平成 28（2016）年の健康寿命は、男性が 72.37 年、女性が 74.41 年となっています。これを令和 22（2040）年までに 3 年以上延伸し、男性が 75.37 年以上、女性が 77.41 年以上になることを目指します。

令和元（2019）年の健康寿命は、男性 72.90 年、女性 75.10 年となっており、全国値より下回っています。第 1 期計画同様、令和元（2019）年時点での値を踏まえ、第 2 期計画終了時点での目標値を再計算し、令和 11（2029）年度末の目標を男性が 74.00 年以上、女性が 76.04 年以上になることを目指します。

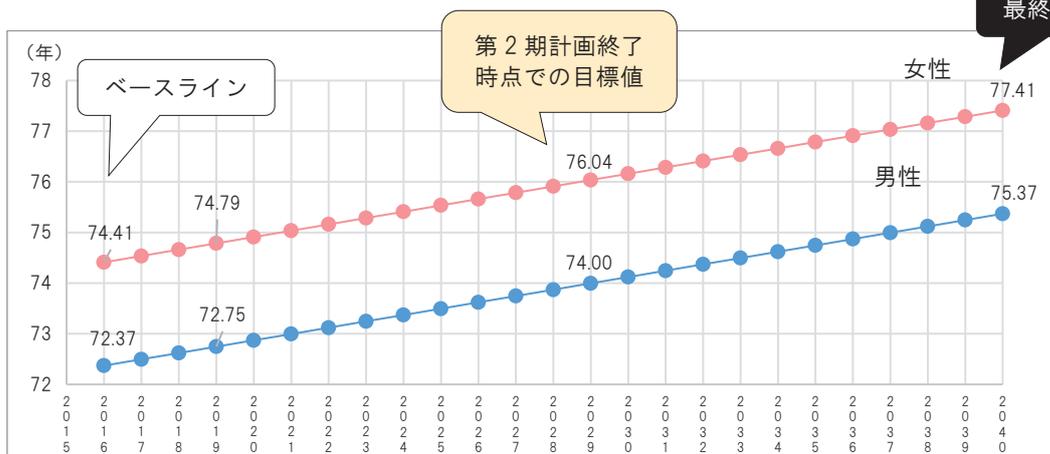
目標

健康寿命（日常生活に制限のない期間の平均）

	H28(2016) 実績	R元(2019) 実績	R11(2029) 年度目標	R22(2040) 年度目標
男性	72.37	72.90	74.00	75.37
女性	74.41	75.10	76.04	77.41



出典 H28及びR1実績値：厚生労働科学研究「健康寿命の指標化に関する研究」、
—健康日本21（第二次）等の健康寿命の検討— 厚生科学審議会（健康日本21（第二次）
推進専門委員会）、第11回健康日本21（第二次）推進専門委員会資料



● 循環器病の年齢調整死亡率の減少

脳血管疾患の年齢調整死亡率は男性、女性ともに低下していますが、依然として全国値より高い状況が続いています。心疾患による年齢調整死亡率は、男性、女性ともに低下していますが、特に直近値では、女性は全国値より高くなっています。

脳血管疾患、心疾患ともに、平成7(1995)年から平成22(2010)年頃までは順調に低下していましたが、近年は緩やかな減少傾向又は横ばいになっています。

第1期計画では数値目標を立てていましたが、今後は、数値目標の設定が難しいことから、第2期計画では「年齢調整死亡率の減少」を目標とし、全国値より低いこと目指します。

目標

年齢調整死亡率（人口10万対）

		H27(2015) 実績	R3(2021) 実績	R3(2021) 全国値	R11(2029) 年度目標
脳血管疾患	男性	128.0	111.5	93.7	年齢調整死亡率の減少かつ全国値より低い
	女性	81.5	70.4	55.1	
心疾患	男性	199.9	191.3	193.8	
	女性	120.9	121.1	110.2	

出典 データからみたまやぎの健康（令和4年度版） 宮城県保健福祉部
主な死因の年齢調整死亡率（人口10万対）の推移：男女別（県、全国）
基準人口：平成27年モデル人口

第2節 基本方針

基本法の基本理念に照らし、宮城県の実情を踏まえた施策を展開し、次に掲げる施策を実施することにより、全体目標の達成を目指します。

2040年までに3年以上の健康寿命の延伸及び循環器病の年齢調整死亡率の減少



- | | | |
|---|---|--------|
| <p>1 循環器病の予防や正しい知識の普及啓発</p> | ➔ | 第4章第1節 |
| <p>2 保健、医療及び福祉に係るサービスの提供体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> — 健診の普及や取組の推進 — 救急搬送体制の整備 — 医療提供体制の構築 — リハビリテーション等の取組 — 後遺症を有する者に対する支援 — 循環器病の緩和ケア — 社会連携に基づく患者支援 — 治療と仕事の両立支援・就労支援 — 小児期・若年期から配慮が必要な循環器病への対策 — 患者等への適切な情報提供・相談支援 — 宮城県脳卒中・心臓病等総合支援センター | ➔ | 第4章第2節 |
| <p>3 循環器病の診療情報の収集・提供体制の整備</p> | ➔ | 第4章第3節 |

上記の個別施策の内容は、次の第4章（第1節～第3節）に記載します。
 （個別施策の各目標は、ロジックモデルの指標に記載）